

あかれんが

† 復十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL : 042-491-4111 <http://www.fukujuji.org>

【発行責任者】院長 工藤 翔 二



巻頭言 医療とリアリティー

副院長 尾形 英雄

大ヒットした宮崎駿監督のアニメ映画「風立ちぬ」は、賛否両論あるものの今夏の話作でした。子供の頃から飛行機に魅せられて遂に零戦設計者になる堀越次郎に、小説「風立ちぬ」の作者堀辰雄の軌跡を重ねた主人公と、ヒロイン菜穂子（モデルは辰雄の恋人 矢野綾子）の悲恋という前宣伝でした。堀辰雄も恋人も結核死したので、薬のない戦前の結核患者の心情や療養生活を、この監督がどう描くか興味があって観てきました。この監督の「となりのトトロ」は、サツキとメイ姉妹の母親が結核で七国山病院（モデルは昭和30年代の保生園→新山手病院）に入院して、家族が近くの田舎に引っ越してきたという設定でした。

思った通り厳冬期に菜穂子が、病院（モデルは富士見高原療養所）のベランダに並べられたベッドで、“大気安静療法”をうけるシーンがありました。山奥の清浄な空気（冷氣）と栄養と安静で結核を治すという最新治療法でしたが、今みれば何とも無茶な医療です。この当時の、結核＝死という強烈なリアリティーが、患者に難行苦行を受けさせたのでしょう。死のリアリティーは消えた代わりに、結核＝感染というリアリティーが医療界に拡がり、結核患者への過剰な偏見になっています。つい最近経験した事例は、腎結核から尿閉をおこし腎臓形成された中国人留学生です。抗結核薬を1ヶ月内服して感染性は消失していましたが、排尿のたびに激痛があってすぐに腎摘が必要でした。しかしどの泌尿器科も手術を断るため、帰国すれば手術してくれ

るはずとアドバイスして、術後日本に戻って来ました。

ところで日本禁煙学会が、子供もみるアニメなのにむやみに喫煙シーンが多いと「風立ちぬ」にクレームをつけました。確かに肺結核で床に伏せている菜穂子のそばで主人公が煙草を吸い、学生同士がタバコを融通するなどやたら喫煙シーンがありました。昭和10年当時は、人体に有害でCOPD・肺癌の原因であることはまだ知られず、男性の80%が喫煙していた時代なので仕方ないかもしれません。ただ堀越次郎は喫煙しなかったそうで、主人公が設計中に吸うシーンは愛煙家として知られる宮崎監督自身が投影されたのでしょうか。

喫煙は依存性ととも生活習慣に根ざしているので、生活を一変させる決心がないと止められません。健康に関心のない大学生にCOPD・肺癌の話しをしても無駄で、高い煙草代と就活（喫煙者は不利とされる）に反応します。一方肺癌を告知された患者は、肺癌＝死というリアリティーを感じて、こちらが云う前に禁煙します。病気・時代・年齢によってもリアリティーは変わりますが、生きるための行動をおこす原動力でもあります。医療者は患者の感じているリアリティーを見抜いてこそ、よい医療を提供できるのだと思います。多くの若者が戦争・疾病で命を落とした「風立ちぬ」の時代を、ユーミンの「ひこうき雲」の歌声が見事に締めくくってくれました。この映画の副題は、堀辰雄の「いざ 生きめやも」を現代風にアレンジした「生きねば」でした。

呼吸器カンファレンス

診療主幹 佐々木 結花

呼吸器内科による呼吸器カンファレンスのご紹介をさせていただきます。そもそも、「カンファレンス」とは、会議だけをさす場合もありますが、討論、協議、連盟という意味も持ち、通常の情報伝達ではなく、その場で同じ目的を持つ集団が、様々な問題点を質問しあい、情報交換し、互いの知恵を出し合って結論を出す場、という意味となります。会議の多くは上意下達になりがちですが、カンファレンス、特に複十字病院呼吸器内科のカンファレンスは、活発な遠慮のない議論の中で、時に笑いも混じる、賑やかな、フランクな協議・研鑽の場といえましょう。参加者は全呼吸器内科医師のみではなく、診断治療に大きな影響を与える放射線診断科、呼吸リハビリセンター呼吸療法士、薬剤科も参加しています。総参加者は20人を超える大所帯です。

カンファレンスは、毎週火曜日17時から開催され、いつ終わるかは決まっておられません。まず症例検討から始まります。診断・治療がなかなか難しい症例について互い提示し、診察、画像、検査所見等を確認しながら、どのような対処がこの患者様に最も有益であるか、多人数の知識や経験を基にして方向を導き出します。現代は「ガイドライン」が各疾患で作られ、その通りにやれば患者様にとって最善であると思われがちですが、典型的な症状をお示しになる患者様、画像所見・検査データから診断・治療の方向が明確である患者様は、実際には多くはありません。患者様一人一人から新しい知見が生まれていくものです。呼吸器カンファレンスのように互いに胸襟を開いて相談しあうことで、担当医師の視野も広くなり、誤った選択肢を削ることができます。医師は何歳になっても学びが必要ですが、新しい知識だけでは医療は偏ったものになります。互いの経験を持ち寄り、次に活かしていくことは、医療においてとても重要な意味を持っています。

今年から、検査成績すべて（気管支内視

鏡検査の写真、病理所見等も含め）、画像検査すべてを、カンファレンスの場にあるモニター上に供覧することができるようになり、よりカンファレンスは活発となっています。

次に抄読会。これは、各医師が順番に興味のある英文論文を皆に紹介する勉強会のようなものです。各医師が全ての論文に目が届けば良いのですが、時間に限りもあり、なかなか難しいので、互いに助け合って知識を共有していくために行われます。医師ごとに呼吸器内科の中でも専門があり、お互いに知識を共有しあうのに良いシステムです。

そして最後に、病院行事の連絡や学会発表の予定演習などを行って、カンファレンスは終了となります。

その後、4階に場所を移し、結核病棟入院カンファレンスと続きます。一例一例、病歴、胸部画像所見、治療方針を検討していきます。海外の結核蔓延状況、様々な新しい検査法や薬剤についても話題となる質の高いカンファレンスで、若手の医師には格好の勉強の場となります。

複十字病院呼吸器内科は、このカンファレンスを基盤に医師同士が連携し、互いの診療レベルを上げつつ、毎日の診療にあたっています。複十字病院呼吸器内科は患者様の信頼に応えられるよう努力いたしておりますので、今後とも宜しく願いいたします。





本館耐震補強工事完了の報告

事務部副部長 佐藤 利光

今年5月、東京都の補助金「医療施設耐震化緊急整備事業」を利用した本館の耐震補強工事が終了した。昭和51年建築の本館は、今年で築37年目を迎えた。昭和56年の建築基準法改正(新耐震基準)以前の建物である。耐震補強は、平成23年3月の東日本大震災の後、当院の抱える現実的な問題として浮上した。平成19年には、本館の施工業者である三井住友建設によって耐震診断がなされていたが、当時の病院の経営状態から立ち消えになっていた。震災時には地下室の給水管が破裂したり、壁面の亀裂が目立つようになるなど、建物に若干の不安が出てきた。三井を含めて耐震補強に実績のある建築業者から情報収集を繰り返したが、適切な工法が見つからなかった。病院という特殊性から、騒音・振動をどれだけ抑えられるかが工事の最重要課題だったのである。

ちょうどその頃、中央館を設計した久米設計のグループ会社でリニューアルを担当する営業マンが、何の前触れもなく私を訪ねて来た。中央館は平成元年建築でこちらも優に20年を超え、雨漏りがひどく屋上の防水を何とかしたいと思っていたところであった。久米の訪問は建築以来だったので、私は、20年以上もほったらかしにされて雨漏りがひどくて大変な目に合っていると皮肉交じりに話したが、同時に耐震工事の悩みも伝えた。しばらくして、久米から、大林組3Q-Wall工法と戸田建設鋼管コッター工法を教えられ、後者を採用することになった。決め手となったのは、低騒音・低振動、省スペースの居ながら工事が可能な点である。後者の方が多少安価だということも要因になった。最終的に久米の詳細設計から、工事箇所を2階管理棟と3階の4病室及びエレベータホールとすることで、構造耐震指標 s 値0.6以上を確保できることが判った。

戸田建設の特許である鋼管コッター工法は、既存のコンクリート間仕切壁部分にブロックを積み、そこに特殊なモルタルを流し込み強固な耐震壁を新設するというものである。特徴は、①あと施工アンカーの代わりに鋼管コッターを使用。コアドリルを用いて溝を掘り樹脂接着剤で固定。②コンクリート打設が不要で低振動・低騒音・小粉塵。③鋼管コッターの埋め込みは30ミリなので鉄筋・埋設配管を破損するおそれがない。④従来のRC耐震壁と同等の強度を有しながら型枠工事の大幅な削減が可能。⑤持ち運び可能なブロックを組積するため静かで省スペース、短工期。

しかもこの工法なら、役所や学校の耐震工事でよく見かける外付けブレース補強のような無残な姿にはならない。外見だけではどこを補強したのか全く見分けがつかないのである。

施工は、入札により福田リニューアルとなった。福田リニューアルは、中央館屋上防水工事も並行して請け負った。

真冬の2月1日に始まった工事は春暖かな5月23日に東京都の検査を受け、同月末に引き渡しとなった。途中、ブロックが破損し流し込み最中の特殊モルタルがエレベータホール一面に流れ出るというトラブルもあったが、設計・施工の双方が当院の要求を十分に聞き入れてくれ、満足のいく仕上がりとなった。工事期間中、病棟スタッフや医師の皆さんには事務方の要望に快く応じて頂いた。何よりもありがたかったのは、入院患者さんに本件工事のご理解を頂き、中断なく進められたことであった。この場を借りてあらためて御礼申し上げたい。ありがとうございました。

補助金を利用した都合から、最低でも今後10年はこのまま本館を使い続ける。10年後はちょうど減価償却期間の47年目となり、立替計画の最中かも知れない。人間に例えれば、老年期に入った本館である。表に現れない部分であちこち痛みが出て来て当然である。下水管の動脈硬化もかなり進んでいるところがある。本館には、適切なメンテナンスを施しつつ、患者さんの安心と安全のためにまだまだ貢献してもらいたいと思う。



既存のコンクリート壁にブロックで増厚する。



左写真の完成後。補強の跡が判らない。

結核病学会 8題 幕張メッセ

呼吸器学会 6題 東京国際Forum

ATS 1題

臨床研究アドバイザー 倉島 篤行

まず今年は3月に幕張メッセで結核病学会がありました。

昨年は12演題と出し過ぎの感もありましたが、今年度は8題という、まあがんばった方でしょう。いつもの結核、非結核性抗酸菌症の臨床分析に関連した内容の他、野内先生が複十字で集積してきたオーダーメイド医療研究、バイオバンク日本の成果として結核菌感受性宿主遺伝子について発表しました。

呼吸器学会は4月にいつもの有楽町東京国際フォーラムで開催され、当院からは6題出題されました。やはり当院が先進的に行っている胸部単純X線動態検査に関する発表が注目されました。

5月には世界中の呼吸器専門医が集まるアメリカ胸部学会総会がフィラデルフィアで開かれ、当院から

は昨年に引き続いて森本先生が肺MAC症臨床経過と各種バイオマーカーについて発表されました。森本先生からはアメリカ建国の礎ともいべき独立宣言文書記念館があるフィラデルフィアの写真を頂きました。

ハートフル・コンサート開催

2013年8月14日(水)午後7時より当院新外来待合にて、恒例のハートフル・コンサートが開催されました。ハートフル・コンサートは、みき音楽事務所さんのご厚意により毎年開催されています。マンドリンアンサンブル「かぐや」により夏の唱歌メドレーなどが演奏され、マンドリンの美しい音色で癒しのひと時を過ごすことができました。

ハートフル・コンサート

マンドリンアンサンブルによる、真夏の夜の夢……♪
癒しの音色で、至福のひと時をお過ごしください。

日時：平成25年8月14日(水) PM19:00開演
会場：複十字病院内1F新外来待合室

▶プログラム

夏の唱歌メドレー
島唄
憧れのハワイ航路
悲しい酒
川の流れのように 他

出演：マンドリンアンサンブル「かぐや」

【共催】複十字病院・みき音楽事務所



長崎大学名誉教授松本慶蔵先生を “感染症顧問”としてお迎えしました



松本先生は、1955年に東北大学をご卒業、1974年から1994まで、長崎大学熱帯医学研究所教授・所長をお務めになり、呼吸器感染症の起炎菌決定法、感染成立機序、抗菌化学療法、呼吸器感染症の感染伝播様式、呼吸器感染症の気道炎症誘導・炎症終息機構などの研究を進められ、フィラリア、トキソプラズマ症やツツガムシ病など海外の感染症にも大きな貢献をされました。これらの感染症研究によって1991年紫綬褒章を受章されています。

このたび、松本先生が結核予防会学術相談役に就任された機会に、複十字病院では感染症顧問として、ご指導いただくことになりました。



new! 新 医師の紹介



よしだ つとむ
吉田 勤

- 配属先／呼吸器センター
呼吸器外科
- 出身地／埼玉県さいたま市
(旧大宮市)
- 出身大学、卒業年／
杏林大学
2000年卒
(2012年大学院卒)

【大学卒業後の主な経歴】

- 2000年 杏林大学医学部 第2外科 入局
- 2002年 日産厚生会玉川病院 気胸センター、慈生会野村病院 外科
- 2003年 自警会東京警察病院 外科
- 2005年 杏林大学医学部 外科学教室 助教
- 2008年 群馬県立がんセンター 呼吸器外科 医長
- 2010年 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 診断病理 特別研究生
- 2011年 群馬県立がんセンター 呼吸器外科／臨床病理検査 部長
- 2013年 結核予防会複十字病院 呼吸器センター 呼吸器外科 主任

【専門医・認定医資格】

- 日本外科学会 認定医
- 日本外科学会 外科専門医
- 日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医
- 日本臨床細胞学会 細胞診専門医
- 肺がんCT検診認定機構 肺がんCT検診認定医
- 日本臨床検査医学会 臨床検査管理医

【趣味及び特技】

料理、音楽、体を動かすこと

【患者様へのメッセージ】

患者様のための努力は惜しみません。



なか がわ たか ゆき
中川 隆行

- 配属先／呼吸器センター
呼吸器外科
- 出身地／千葉県柏市
- 出身大学、卒業年／
東北大学
2003年卒
(2013年大学院卒)

【大学卒業後の主な経歴】

- 2003年 5月 山形県立中央病院 (一般外科・呼吸器外科)
- 2009年 2月 東北大学加齢医学研究所 呼吸器再建
- 2009年10月 青森県立中央病院 呼吸器外科
- 2010年 9月 宮城県立がんセンター呼吸器外科、同研究所 癌幹細胞研究部特任研究員
- 2013年 結核予防会複十字病院 呼吸器センター 呼吸器外科 主任

【専門医・認定医資格】

外科専門医

【趣味及び特技】

海外登山・トレッキング

【患者様へのメッセージ】

御信頼を頂けるよう安心・安全な医療と丁寧な説明を心掛けています。

院内の絵画について

中央監視室 小林 健夫

今を去る事一年前、工藤院長から「院内美化委員会委員長を命ず」と言うご託宣があった。但し非公式の委員会であり、尚且委員は委員長含めて独りとの仰せ。甘んじて……いや喜んでお受け致しました。

さて、とは言うものの絵画は宮内庁御下賜が数点と院長持参の絵画が何点かあるのみ。作者はバラバラ、勿論統一性は無く、それら絵画を前に途方に暮れてしまいました。ため息ばかりついていたのでは進展がないので取り敢えず無表情の壁を埋めるが如く展示してみました。案の定バラバラ、ただ絵が飾ってあると言う悲惨な状態が現出しました。「こりゃあ〜どげんかせんとイカン」、下手ながら私個人の絵を持参したり、企画責任者（院長）から自宅に飾ってある絵までも供出をお願いし、また思いがけず下田清美先生からは「岩下尊宏画伯（雑木林）」の絵を寄贈して頂いたりなどしてどうやら絵が集まって参りました。そして決定打が研究所からありました。それは故「東義國先生」の絵が8点寄贈されたのです。但し額に入っておらず、無理を承知で病院から額を購入して頂き、無事「東義國コーナー」を完成させる事が出来ました。

皆さん！当院の絵画作品の中で恐ろしいほど価値のある絵が飾ってあるのをご存知ですか？ 勿論作品はそれぞれに価値のあるものばかりですが、特に本館1階のトイレ前に飾ってある橋本八百二の「岩手山」は圧巻です。この作品は八百二晩年の作品で、彼の作品は岩手の美術館や八百二記念館（現在閉鎖）にて見る事が出来ますが、これほど大きな作品で、しかもこれほど保存状態の良い作品は珍しく、おそらく売りに出したら美術館が真っ先に駆けつける事でしょう！ 下世話ですがその金額は〇〇〇万円を下らないと言われております。また岩下尊弘画伯は御存命で、「雪を画かせたら右に出る者はいない」と美術誌で評価され、現在八十歳を過ぎましたが米山山中にアトリエを持ち、意欲的に制作に励んでおります。新潟近代美術館では画伯の「地吹雪三部作」が飾られており、百号三枚から成り立つその作品は観る者を圧倒します。因みに偶然ですが岩下画伯とは10年位前からの知古で、新潟への帰省時には度々訪ねて行きますが、去年伺った時、下田先生寄贈の「雑木林」の絵の話になり「雪の坂の上まで行ってその先がどうなっているのか見てみたい、そんな気にさせる絵ですね」と話した折、「正にそれがテーマで『山のあなたの空遠くだよ』と大そう喜んでおりました。雪景色の寒そうな絵ですが、陽の当たって

る部分もあり、誰かが通って行ったであろう轍も描かれていて、坂を登りきってもまた同じような景色が続いているのでしょうか。「幸せ」は遠くにあるものではなく、今現在あなたが立っているその位置が一番幸せなのかも？

村上ケイ子画伯は当予防会前総裁「秩父宮勢津子妃」の御友人でもあり、画家としても大変力量のある方で一見何ともないような題材の中に生命を見つめ、息吹を吹き込み、観る者に感動を与えてくれます。地味に見える色彩ですが、よく見るとその中に極彩色が輝き、絵の中に引き込まれそうになります。生命の大切さ、尊さ、生きる事の意味を作者は私達に訴えかけているようです！誰も座っていない椅子の絵がありますが、あなたは椅子の上に誰を見ますか？

絵を見て感じる何かがあったら、それも一つの幸せです！ 絵を見るには何の知識も必要ありません。「特に抽象画はわからない」と言う人もいますが安心して下さい、多分描いている本人もあまり分かってはいないと思います。理解出来ない絵を見るにはコツがあります。抽象でも具象でもどのような作品でも構いませんので、無理やり自分に「この作品は素晴らしい」と思いこませるのです。何故良いのか、理由は何とでもこじつけて見て下さい。「形が良い」・「リズム感が心地よい」・「色が綺麗だ」・「線が鋭い」・「寂しそうだ」、要するに自分を暗示にかけて作品を鑑賞するのです。すると本当にその作品が好きになり、やがて理解出来、「絵」と対話出来るまでになります！知らず知らずのうちに感性が磨かれているのです。これは人生の何に対しても通じます！さあ、絵を見に行ってみましょう！



複十字病院登録医会

第11回定期総会・学術講演会

が開催されました

2013年7月13日（土）16時30分より結核研究所4階講堂におきまして、複十字病院登録医会第11回定期総会・学術講演会が開催されました。当日は登録医の先生方、結核予防会関係者、当院の職員等約100名が参加して、はじめに定期総会が開催され、2012年度の事業報告・2013年度の事業計画及び登録医会幹事について承認され、17時より下記テーマで学術講演会を開催し、各講演の後には活発な質疑応答が行われました。



テーマ 「複十字病院の消化器診療」

▶ 結核入院患者に対する消化器外科手術の動向

消化器センター長（消化器外科） 生形 之男

▶ 早期胃がん・大腸がんに対する内視鏡治療（ESD）の紹介

消化器センター副センター長（消化器内科） 吉原 和雄

▶ 腹腔鏡下手術の紹介～腹腔鏡下大腸切除術～

消化器センター内視鏡科長（消化器外科） 渋谷 学

▶ 腹腔鏡下手術の紹介～単孔式虫垂切除術～

消化器センター副センター長（消化器外科） 中浦 寛

特別講演 「地域で支えるがん医療」

公益財団法人日本対がん協会会長・元国立がんセンター名誉総長 垣添 忠生 先生

講演会終了後に、結核研究所1階に場所を移して恒例の懇親会が行われ、中川勝先生（登録医会代表幹事）がチョイスされた、おいしい日本酒スパークリングやワインを堪能しながら親睦を深めました。

病院の垣根を越えた交流

（第1回 複十字病院 VS 新山手病院 体育大会）

事務部 庶務課

先日、2020年に東京オリンピック開催決定が報じられたばかりであるが、どうやら今回の東京オリンピックは湾岸エリアを中心に「コンパクトな近代オリンピック」と銘打たれ、東京開催だということに我が結核予防会の2大病院である複十字病院と新山手病院の拠点である「清瀬市」「東村山市」は完璧に蚊帳の外になりそうである。

そこで少しでも東京オリンピックにあやかれないかと6月29日に東村山市内の小学校体育館をお借りして、今までスポーツ交流のなかった複十字病院と新山手病院で「バレーボール対抗戦」が実現しました！！（実のところは……ある夜の飲み会での話が発展して実現しただけなのですが……）

新山手病院のホームである東村山市で開催された事からもわかるように、新山手病院バレーボールチームは男女問わず毎月コンスタントに練習しているのですが、当院にはバレーボールチームなど存在せず、ゲームをする人数である6人が集るかさえも危ぶまれ当初は勝てる可能性は皆無でした。

しかし、さまざまな紆余曲折を経て、地道に色々な方に声をかけ、経験・職種・性別問わずスカウト活動を行い、最終的には医師にも参加して頂き（多少反則なスカウト活動も行いましたが…一番の戦力でした。）、20名を超える方が駆けつけてくれました。（参加された皆さん、応援に駆けつけてくれた皆さんありがとうございました。）

そして、試合結果は大方の予想に反して、見事セットカウント2-1で当院が勝利をしました！

グループ内病院同士でありながら、業務以外での交流が少なかったのですが、今回の「対抗戦」を通じて、これからは両病院で働く職員間の良い交流の場になるように、バレーボールに限らず、いくつかの種目で毎年「対抗戦」が実現出来るきっかけになればと考えております。





複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1. 私たちは患者さま中心の医療を行います。
2. 私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4. 私たちは最新で最良の医療を提供します。
5. 私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。



● 複十字病院の基本方針 ●

1. 一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2. 複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3. 職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4. 在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5. 院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6. 職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7. 患者さまは年齢、性別、地位に関係なく十分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8. 危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人事異動

2013年6月15日～9月14日まで

【採用】

(看護師)	田 沢 陽 子	6/15
(医 師)	吉 田 勤	7/1
(医 師)	中 川 隆 行	7/1
(看護師)	小笠原 礼	7/1
(看護師)	菊 次 智 子	8/1
(看護師)	屋嘉部 文 乃	8/1

【退職】

(医 師)	喜 多 秀 文	6/30
(医 師)	葛 城 直 哉	6/30
(医 師)	久 世 眞 之	6/30
(看護師)	牧 田 雅 美	9/14
(看護師)	橋 本 明 江	9/14

行事予定

1. 複十字病院呼吸器センター市民公開講座「今増えている肺非結核性抗酸菌症!!」
日 時▶2013年10月26日(土) 13:00
場 所▶清瀬アミューホール(7F)
2. 第9回複十字病院乳腺センター乳がん市民公開講座「明日の私のために」
日 時▶2013年11月10日(日) 14:00
場 所▶清瀬市竹丘地域市民センター 第5会議室
3. 複十字病院第9回院内発表会
日 時▶2013年12月14日(土) 13:00
場 所▶結核研究所 講堂
*詳細は後日ご案内いたします
4. 年末年始休診
日 時▶2013年12月29日(日)～2014年1月3日(金)
*12月28日(土)と1月4日(土)は通常の土曜日診療となります



編集後記

今年の夏も暑い暑い夏でした。

我が家では、暑さ対策のためグリーンカーテンとして植えたゴーヤがたくさん収穫でき、実りの夏(?)となり、ゴーヤ漬(実はちょっと苦手……)の日々でした。これからの楽しみは秋の柿。台風や悪天候にも負けず、ゴーヤのようにたくさん採れると嬉しいです。

(to)

表紙の写真

庄内の秋

鶴岡湯野浜の名刹善寶寺から少し歩くと、出羽三山を背にした庄内平野が広がる。米どころ庄内の稔りは今年も豊作のようだ。(翔)